

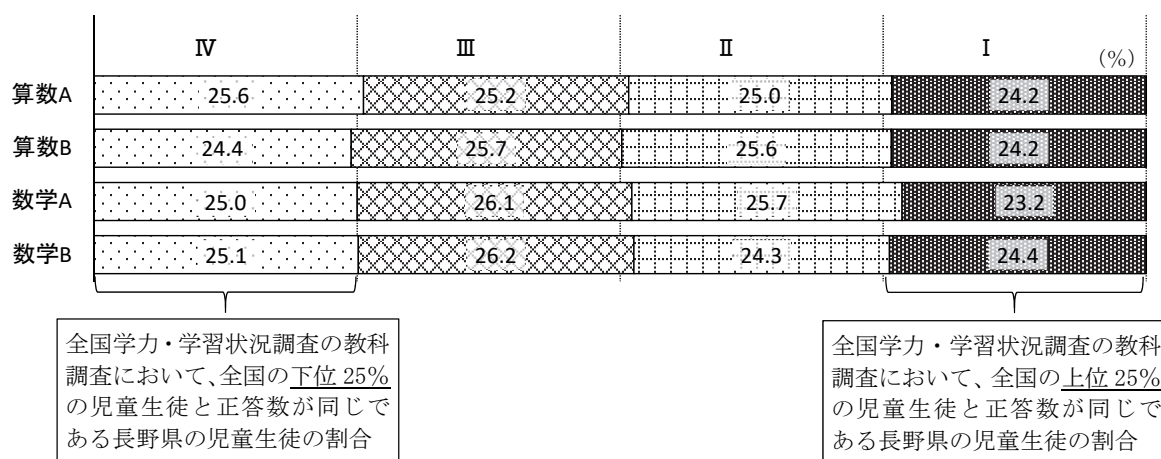
## 1 未来を切り拓く学力の育成

### (1) 確かな学力を伸ばす教育の充実（主に義務教育段階）

#### 現状と課題

- 急激な社会変化とグローバル化が進む中においては、基礎的・基本的な知識・技能に加え、それを活用する力、コミュニケーション能力等、子どもたちが自ら未来を切り拓いていく力が求められています。
- 学力スパイラルアップ事業\*を通して、多くの学校で学力向上のPDC Aサイクル\*を意識した取組が進んできていますが、本県児童生徒の学力は、基礎的・基本的な知識・技能に比べ、知識・技能等を活用する力に課題があります。また、上位層の児童生徒数が比較的少なく、「伸びる力」をより伸ばせるよう個に応じた指導が求められています。
- 多くの学校で「授業がもっとよくなる3観点\*」を意識した授業改善への取組や、30人規模学級編制等を活かしたきめ細かな指導方法等の工夫改善が行われていますが、児童生徒が主体的に学ぶ力を身に付けるためには、授業改善に向けた教員の意識改革と実践を一層進めることが求められています。

図1-(1) 「全国学力・学習状況調査」の算数（数学）において、全国の正答率を4分割した際のそれぞれの区分に含まれる県内児童生徒の割合



※ 算数A（小6）・数学A（中3）：主として「知識」に関する問題  
 ※ 算数B（小6）・数学B（中3）：主として「活用」に関する問題

文部科学省「平成29年度 全国学力・学習状況調査」

### 目指す成果

- ◆ 児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能の活用力と課題探究力、人間関係形成力等、これからの時代を生きるための資質・能力を身に付けられるようにします。
- ◆ 学ぶ意欲や目的意識を持った主体的な児童生徒を育てます。

### 主な施策の展開

確かな学力を伸ばす教育を充実するために、次のような取組を進めます。

#### ① 学びに向かう姿勢の向上と基礎学力の定着

- 全国的な水準よりも充実している 30 人規模学級編制等の教員配置について今後も維持していくとともに、少人数の学習集団を生かした授業改善や個別の教育課題の解決に取り組みます。
- 小・中学校における 30 人規模学級編制など、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行うことにより、学習習慣・生活習慣の定着と基礎学力の向上を図ります。
- 伸ばすべき力を伸ばす効果的な学力向上施策を充実します。
- 「授業がもっとよくなる 3 観点」の質的な向上を支援し、学習評価と指導の一体化を図り、学力の確かな定着を一層促進します。

#### ② 授業改善の推進

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、知識・技能を活用する力や課題を探究する力の育成を図ります。
- 「全国学力・学習状況調査」などの結果を活用し、一人ひとりの子どもたちに応じた指導や授業の改善に取り組みます。
- 新学習指導要領への的確な対応など、これからの時代を生き抜く力、次代を切り拓く力の育成に向けた授業改善を推進します。
- すべての児童生徒にとって「楽しく・わかる・できる授業」となるよう、信州型ユニバーサルデザインを構築するとともに、教員の専門性の向上を図ります。

#### ③ 小中、中高の連続性ある指導

- 中学校における学習の成果が、高等学校の入学時においても適切に評価されるよう高等学校入学者選抜学力検査問題の改善を図ります。
- 小中連携、中高連携の好事例の学校への普及啓発や、小・中学校による合同研修会等への支援により、小中・中高の接続が一層円滑になるよう取り組みます。



小中合同授業研究会

④ ICTの活用等による確かな学力の育成

- 県内のすべての公立小中学校への超高速通信回線の整備、県立学校におけるICT機器の整備、モデル校におけるプログラミング教育の研究とその成果の全県への普及など、ICTを活用した質の高い学びを支援します。
- 未来を担う子どもたちにICT利活用の素養と感性を身に付ける機会を提供することにより、ICT人材の育成を支援します。



タブレットPCを活用したグループ学習

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
県内の小6児童のうち、全国上位4分の1に含まれる児童の割合	算数A 24.2% 算数B 24.2% (2017年度)	算数A 27.0%以上 算数B 27.0%以上 (2022年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」において、算数の正答率が全国の上位25%のボーダーを上回った児童の割合
県内の小6児童のうち、全国下位4分の1に含まれる児童の割合	算数A 25.6% 算数B 24.4% (2017年度)	算数A 22.0%以下 算数B 22.0%以下 (2022年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」において、算数の正答率が全国の下位25%のボーダーを下回った児童の割合
県内の中3生徒のうち、全国上位4分の1に含まれる生徒の割合	数学A 23.2% 数学B 24.4% (2017年度)	数学A 27.0%以上 数学B 27.0%以上 (2022年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」において、数学の正答率が全国の上位25%のボーダーを上回った生徒の割合
県内の中3生徒のうち、全国下位4分の1に含まれる生徒の割合	数学A 25.0% 数学B 25.1% (2017年度)	数学A 22.0%以下 数学B 22.0%以下 (2022年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」において、数学の正答率が全国の下位25%のボーダーを下回った生徒の割合
「授業がよく分かる」と答える児童生徒（小6、中3）の割合	78.3% (2017年度)	80.0% (2022年度)	文部科学省「全国学力・学習状況調査」児童生徒質問紙の国語、算数・数学に関する項目

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する2023年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答える児童生徒（小6、中3）の割合	62.6% (2017年度)	探究的な学習が身に付いていくこと	文部科学省「全国学力・学習状況調査」